

令和7年度市長とのタウンミーティング実施結果

1 参加人数

日 時	会 場	会 場 参加人数	オンライン 参加人数
6月29日（日）10時～	生石研修センター	12人	30人
6月29日（日）14時～	北浜地域交流センター	11人	17人
7月6日（日）10時～	高砂市役所南庁舎	20人	24人
7月6日（日）14時～	ユーアイ帆っとセンター	9人	19人
小計		52人	90人
合計			142人

（参考）令和6年度

地 区	会場参加人数	オンライン
生石研修センター	19人	52人
北浜地域交流センター	12人	20人
ユーアイ帆っとセンター	20人	18人
高砂市役所分庁舎	14人	21人
小 計	65人	111人
合 計		176人

2 アンケート結果（回答数57件、オンライン含む）

※パーセントは小数点第2位を四捨五入

（1）お住まいの地区

高砂	荒井	伊保	中筋	曽根	米田	阿弥陀	北浜	市外	合計
11人	11人	7人	1人	6人	10人	1人	10人	0人	57人

（2）参加者のご年齢

20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	合計
0人	5人	6人	5人	7人	14人	20人	57人
(0%)	(8.8%)	(10.5%)	(8.8%)	(12.3%)	(24.6%)	(35.0%)	

（参考）令和5年度

20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	計
1人	3人	5人	4人	10人	16人	31人	70人
(1.4%)	(4.3%)	(7.1%)	(5.7%)	(14.3%)	(22.9%)	(44.3%)	

（3）市長とのタウンミーティングはよかったですか。（5段階評価）

悪かった 1	2	どちらでもない 3	4	良かった 5	無回答	合計
1人	4人	13人	17人	19人	3人	57人
(1.8%)	(7.0%)	(22.8%)	(29.8%)	(33.3%)	(5.3%)	

（参考）令和5年度

悪かった 1	2	どちらでもない 3	4	良かった 5	無回答	計
3人	2人	22人	18人	22人	3人	70人
(4.2%)	(2.9%)	(31.4%)	(25.7%)	(31.4%)	(4.3%)	

（4）市長とのタウンミーティングの時間はどうでしたか。（5段階評価）

短い 1	2	適度 3	4	長い 5	無回答	合計
8人	5人	35人	3人	2人	4人	57人
(14.0%)	(8.8%)	(61.4%)	(5.3%)	(3.5%)	(7.0%)	

（参考）令和5年度

短い 1	2	適度 3	4	長い 5	無回答	計
17人	15人	30人	2人	2人	4人	70人
(24.3%)	(21.4%)	(42.9%)	(2.9%)	(2.9%)	(5.7%)	

3 各会場でのご意見（概要）

各会場で出たご意見等に対して、当日市長が回答した内容及び対応方針をまとめました。
なお、対応方針は、令和7年8月末現在です。

テーマ「災害に負けないまちづくり」

（1） 生石研修センター

テーマについての意見交換

参加者	市長	対応方針
高砂市の津波対策に不安がある。県の調査では死者 87 名の見込みがあるが、対策が進んでいない。ハード・ソフト両面で、市の方針や避難情報も不足し、ハザードマップに津波のことが書かれていないため、市民が津波の危険を認識していない。南海トラフ地震により津波が押し寄せると、避難は困難。迅速な対策検討と実施を望む。	南海トラフ地震の発生が近い可能性があり、市民の不安軽減に向け、ハード・ソフト面で整備していく必要があると考えている。津波の到達予測や避難所情報は発信中。防潮堤建設などハード面は、県や、東播磨港周辺等の企業や各市町と整備の方法を協議していきたい。	【総務部】 ソフト面については、ハザードマップに津波の浸水想定区域図を掲載しており、出前講座等で周知を図っている。今後、南海トラフ地震の被害想定の見直しに伴い、新たな浸水想定区域図が示されるので、再度、出前講座等を通じて周知を図っていく。 ハード面の整備については、県の計画に基づいて実施されるものであるため、県と連携、協議を行っていく。
他地域（南あわじ市・尼崎市など）の津波対策や高潮対策は進んでおり、高砂市も同様のハード施策検討が必要。例として、尼崎の閘門設備のような具体策を提案したい。	近隣自治体の取り組みを注視し、沿岸部の市町と連携しながら対策を進めていきたい。	【総務部】 ハード整備については、県と連携、協議を行っていく。
備蓄物資や災害用トイレについて。特に車椅子対応はどうなっているか。	（危機管理室長） 自動ラップ式トイレを少数備えており、車椅子の方にも使用していただける。また、仮設トイレ提供会社と協定を結んでいるため、必要に応じて身体障がい者対応トイレも調達可能。	【総務部】 自動ラップ式トイレについては、車椅子の方も利用できるよう、手すりとして利用できるアームも併せて購入し備蓄を行っている。今後も、備蓄物資の購入を行っていく中で、女性、福祉

	備蓄物資は毛布、アルファ米、発電機など初動体制に必要なものを確保している。備蓄していないものについては、流通備蓄という形で協定や広域災害ネットワークを活用し応援を依頼する。	など様々な視点の意見を取り入れて、備蓄物資の選定を行っていく。
備蓄物資の中にアレルギー対応食は用意されているか。	（危機管理室長） 28 品目のアレルギーに対応した食料（アルファ米、羊羹、おかゆなど）を備蓄している。	【総務部】 パンを除く食料については、原則 28 品目のアレルギーに対応しているものを選定して備蓄を行っている。また、粉ミルクについてもアレルギー対応のものを備蓄している。今後も、アレルギー対応を考慮した備蓄品の選定を行っていく。
地区防災計画が自治会で作成されていないところがあり、自治会長の協力を促してほしい。	地域住民や自治会と丁寧話し合いをしながら、地区防災計画の策定・推進を図りたい。	【総務部】 地区防災計画として市に提案していないものの、地域独自の防災計画を持っている地域は存在する。今後、地区防災計画化に向けて、自主防災会に支援を行っていく。
旧耐震基準の住宅に対する無料の耐震診断制度はあるか。	（危機管理室長） 旧耐震基準の住宅は無料で耐震診断可能。詳しくは、都市創造部建築住宅課にお問い合わせを。	【都市創造部】 昭和 56 年 5 月 31 日以前に着工した旧耐震基準の戸建住宅については、簡易耐震診断を無料で受けていただける制度を実施しており、建築住宅課に問い合わせいただければ、制度のご案内をさせていただきます。

フリートーク

参加者	市長	対応方針
文化会館移転にかかる予算などの詳細は。	移転候補地として検討中であり、文化会館の基本構想や予算は今後庁内で協議した上で議会、市民に説明できるよう進めていく。	【健康こども部】 移転については、現地建替えを含め候補地を検討している。また、移転及び建替えに係る予算は現状では未定だが、今後、建替えに向けた基本構想を策定して、市民には定期的に説明していく。
市民病院が文化会館の敷地へ移転するというのは決定事項か。 水害の懸念に対する対策は。	現段階では移転候補地としての発表段階。水害対策についても今後詳細に計画予定。	【政策部】 令和7年6月公表の「高砂市民病院移転候補地の考え方について」において、文化会館敷地を移転候補地とした。 文化会館の敷地は計画規模降雨(100～150年に1回程度の大雨)では想定される浸水は0.5m～3.0m、想定最大規模降雨(1000年に1回程度の大雨)では想定される浸水は3.0m～5.0mとなっている。今後、基本構想・基本計画を策定していく中において、具体的な対策を検討していく。

(2) 北浜地域交流センター

テーマについての意見交換

参加者	市長	対応方針
伊保小学校の運動場横の川の土手の高さが低く、津波や大雨時に心配。市役所裏の川沿いも同様に大丈夫か。	(市長) 伊保小学校横の法華山谷川の土手は県管轄で嵩上げ工事を完了。市役所は新庁舎建設時に地盤を 2～3 メートル嵩上げし、水害対策済み。 (危機管理室長) 市長回答のとおり。伊保小学校は避難所になっているが、伊保地区の住民が必ずしも伊保小学校に避難しなければならないというわけではなく、避難は安全なルートで行ってもらおう、市としてアナウンスしている。	【総務部】 ハード整備については嵩上げ工事等が終了しており、対応済み。 避難を考える場合、小学校区に縛られることなく、安全な避難所等に避難を行うよう、今後も周知を図っていく。 【上下水道部】 伊保小学校の運動場横及び市役所裏の法華山谷川の土手においては、兵庫県が管轄しており、治水対策として土手の嵩上げ事業は終了している。
台風 12 号時の曽根地区の豪雨とポンプ場の排水能力について不明瞭。実際にどの程度の雨量に対応可能か説明を。	(危機管理室長) 当時の時間雨量に対応できるよう、ポンプ場設置や排水施設の整備で床上・床下浸水対策は完了した。ただし、それ以上の豪雨では依然リスクがある。出前講座やハザードマップなどで周知を図っている。	【総務部】 現在、ハザードマップを活用した内容の出前講座を実施しており、今後も継続する。また、今後、ハザードマップが更新された際は、新たな被害想定の説明を行う出前講座メニューを設け、周知を図っていく。 【上下水道部】 台風12号時の時間最大降水量 77.8 ミリの降雨を再現したシミュレーション解析を実施し、この時の豪雨に対して床上・床下浸水被害をなくすための浸水対策計画を策定し、これに基づいた河川、下水道対策を令和6年で概ね完了した。

松村川の桜の老木化と川の水位上昇について。桜の植え替え計画は？ また、近隣の土手は満ち潮の際に水の量が多く感じる。安全性は？	桜の木は約 50 年経過し、支障のある枝の剪定を実施している。将来に向けた植樹計画は未定。 松村川排水機場完成で内水氾濫防止を強化している。高潮時は防潮水門を閉めて水位制御する。	【都市創造部】 松村川・鹿島川西側の桜については、交通量の多い幹線道路に面しており、通行等の安全上支障になると考えている。現在、将来の植樹計画については策定していない。 【上下水道部】 防潮水門により海水の逆流を防いでいる。上流から流れてくる水の影響で、水の量が多く感じる時もあるが、大雨時にはポンプを使って強制的に排水する。また、台風の接近等で大雨が予測される時は、事前にポンプで排水を行い、雨水貯留容量を確保し市民の安全・安心のため大雨に備えている。
どんな連携協定を結んでいるのか、具体的に教えてほしい。 また、仮設トイレの設置数や設置にかかる期間、災害時の支援内容の具体例を教えてほしい。	(危機管理室長) 自動車会社との協定では、電気自動車、プラグインハイブリッド車などを避難所に配備してもらい、避難所で使用する端末や携帯電話の充電に活用する想定をしている。 仮設トイレについては、試算で、小学校などに初期段階で 200 台程度のダンボール製簡易トイレを設置し、3 日目以降は仮設トイレを配備予定。	【総務部】 災害協定については、現在も調整を行っており、今後も増えていく予定。今年度に締結した協定の内容も、被災時の応急対応に必要なブルーシートを調達するものや、避難所で必要な物品を調達するものなど、多岐に渡っている。 仮設トイレについては、今年度、協定の締結を行っており、被災後3日を目途に、各避難所への設置を予定している。
プラグインハイブリッド車による電力供給は携帯電話の充電のみか。ほかの家庭用機器の電源は取れないのか。	(危機管理室長) 携帯電話の充電だけでなく、湯沸かしポットなどの電気機器にも利用可能。そのほか、カセット	【総務部】 プラグインハイブリッド車による電力供給は、避難所に対して供給されるものである。

	ガス式発電機も活用し、体育館などで使用する電気機器の電力供給を考えている。	避難者にも開放し、携帯電話以外の電気機器にも利用可能だが、避難所運営において、災害対策本部との連絡手段として使用する電子機器への電力供給を優先することとしている。
公民館、自治会館に蓄電池設置の計画は？	蓄電池設置については今後の災害対応で検討予定。避難者数に応じた発電機や蓄電池の備蓄量も考える必要があると思っている。	【総務部】 現在、地域交流センターに蓄電池の配備は行っていない。現在、備蓄計画に基づいて、各避難所に発電機の配備を行っているところであり、発電機の配備が完了した後、蓄電池の配備について検討していく。

フリートーク

参加者	市長	対応方針
市民病院の文化会館敷地への移転計画について。文化会館の今後の方針は？	市民病院将来構想検討委員会の答申に基づき、高砂駅・荒井駅周辺での移転を検討し、文化会館敷地を候補地として発表した。 まだ構想中で、市民・関係団体とも意見調整をしていない段階。文化会館の移設場所を決定してから発表すべきところ、順序が逆になり申し訳ない。	【健康こども部】 文化会館の移転については、現地建替えを含め候補地を検討している。 今後、基本構想を策定し方針について示していく。
今年度末で閉館する生石研修センターの後は？解体はするのか。	文化面での活用を検討中。現時点では、解体予定はなく、庁内で協議したうえで今後説明をしていきたい。	【生活環境部】 施設については、設置目的を達成したと判断し令和8年3月末で用途廃止し閉館。併せて施設の管理を行っている勤労福祉財団も解散予定。閉館後の施設の利活用については、庁内委員会で検討を行っている。

参加者	市長	対応方針
		【政策部】 今後、施設の有効活用を検討していく。
市民病院小規模化・文化会館建て替え・市役所新築・播磨臨海道路など財政負担が懸念。どう考えるか。	市民病院は、持続可能な運営のため移転・建て替えの方向で進めている。財政負担は長期スケジュールで調整し、市民負担軽減を最優先に検討。他の公共施設、小中学校の建て替え・統合計画と併せて、将来にできるだけ財政負担がかからないように進めていく必要があると考える。	【政策部】 今年度に市民病院を公設公営で続けた場合における新病院開院年度以降10年間の平均基準外繰出金を算定する将来予測を行う。 市全体の財政負担を考慮し、平均基準外繰出金を4億円に維持できない場合は経営形態を見直す。 今後、他の公共施設も併せて施設の方向性を検討していく。 【財務部】 高度経済成長期に建設した公共施設やインフラの更新等が多く控えているが、中期財政計画・長期財政見通しを毎年作成する中で、その財源について精査し、持続可能な財政運営となるよう取り組んでいく。
北浜に救急車配備希望の声があるが、市の現状は？	(危機管理室長) 平日は北浜地域交流センター内に救急車が待機し対応。 (市長) 熱中症対応増加を踏まえ、救急車1台を今年度中に追加購入予定。	【総務部】 平日の日中は、北浜地域交流センター内に救急隊と救急車が待機して対応を行っている。
これからの安全安心のために、地域の繋がり(地域力)をどう強化するか。	北脇地区で急傾斜地保全を進めており、他地域でも災害の発生前に危険区域の調査・対	【総務部】 地域の繋がり(地域力)は地域の防災力に直結するもの

参加者	市長	対応方針
急傾斜地の崩落リスク対策は？	応を推進していく必要があると考えている。 地域力強化は非常に重要。住民の協力を得ながら、行政・住民ともに取り組んでいきたい。	と考えている。自主防災組織への助成事業や、県が行っている補助事業の活用などを促すことで、地域の活動の維持、活性化を図っていく。 【市民部】 災害時に頼りになるのは地域の繋がりであり、その中心を担う自治会は、防災訓練や安否確認、避難所運営など、重要な役割を担われている。しかし役員のなり手不足や高齢化が課題である。地域力の強化には、若い世代が参加しやすい仕組みづくりや活動の見える化が重要であり、行政による支援の充実が求められている。自治会と行政が連携し、多世代で支え合える地域づくりに取り組んでいく。 【都市創造部】 現在、北脇地区にて急傾斜地崩壊対策事業を実施している。 令和 6 年度に他の対象自治会に事業の説明を行った。今後は、住民の協力を得ながら地域に応じた対応を検討していく。
空き家活用策は？ 山火事防止のための施策は？	空き家対策は各地域で課題となっており、取り組みを検討するよう担当部署に伝える。 火災対策は、周辺整備も含め関係住民と連携して進めたい。	【都市創造部】 高砂市空き家等対策計画に基づき空き家の適正な管理の推進をはじめとした様々な取り組みを行っている。その中で空き家の利活用の推進として空き家バンク制度や補助

参加者	市長	対応方針
		制度も実施しており、広報誌やホームページなどでお知らせをしている。 【消防本部】 山火事の防止について、ホームページでの広報のほか、登山口及び登山道に山火事防止標識を設置し、入山者に対して啓発を行っている。また、適宜、山裾も含めた防火パトロールを実施している。

(3) 高砂市役所

テーマについての意見交換

参加者	市長	対応方針
避難所での避難生活時に、感染症の問題や衛生面の管理についてどのように考えているか教えてほしい。	(危機管理室長) 避難所(地域交流センター、体育館、小学校体育館等)に感染症対策キットを配備し、避難者受け入れ時に体調確認を実施。熱がある場合は間仕切り(パーティション)で隔離するなど感染拡大防止に努める。	【総務部】 市の指定避難所には感染症対策キットを配備しており、手指消毒液やマスクなど、感染対策に必要な物品の配備をしている。加えて、毎年、避難所運営担当職員を対象に、訓練を行っており、訓練内で避難所内における感染症対策、受け入れ時の注意点なども取り扱っている。
南海トラフ巨大地震の津波対策について、防潮堤が少ないがどうか。また、ハザードマップがわかりにくいので改善できないか。	(市長) 防潮堤については、沿岸部の企業との連携強化を進める。 (危機管理室長) 防潮堤に関しては、県の防潮堤整備や国の浸水想定見直しに合わせて要望する。 ハザードマップの見直しの際には、見やすいものを作りたい。	【総務部】 防潮堤などのハード整備については、県と連携、協議していく。 ハザードマップについては、次回更新時に、「見やすい」「分かりやすい」に留意して作成を行っていく。
1. デジタルハザードマップに福祉避難所や災害種別の避難所表示を追加してほしい。 2. 災害時のペット同行避難について、受け入れ体制や備蓄状況、対象ペットの範囲を教えてください。 3. 学校避難所利用時の早期復旧マニュアルなど教育再開の方針はどうか。	(危機管理室長) 1. 福祉避難所は、災害時に1人で避難できない方の個別避難計画に基づいて利用してもらうもので、マップに表示すると誰もが避難できてしまうと誤解を与えてしまうおそれがあるため表示をしていなかった。マップに反映するかは検討する。 なお、一般の避難所には配慮者スペースを設置する。 2. ペットは主に犬猫を想定し、屋外軒下でゲージ設置によ	【総務部】 1. 福祉避難所については、「施設利用者に限る」など、受入れに条件を付しているところもあることから、現在、一覧表として情報を提示している。地図情報として情報提供を行うことについては、今後検討していく。 2. ペットについては、同行避難のみ認めている。避難所で過ごす際は、ペットをゲージなどに入れることを条件としているので、ゲージ等に入れ

	る避難。犬猫以外のペットについては今後課題検討。備蓄についても現状ないが今後検討。 3. 学校避難所は、原則体育館利用だが、教室利用も検討。応急仮設住宅等の活用で教育早期再開を進める。	ることができないペットは対象外となる。現在、ペット用の備蓄は行っておらず、必要な物品は避難時に持参いただくこととしている。 3. 学校を避難所として利用した場合、早期に教育を再開することを視野に入れて、総合体育館など、1つの大きな避難所に集約するなどの対策や、応急仮設住宅へ迅速に移れるようにするなどの対策を考えている。
ペット避難に屋外での対応は、暑さ寒さの問題があるため、ペットシート等の備蓄が必要ではないか。	(危機管理室長) ペットシート等のペット用の備蓄は現状市になく、飼い主に持参をお願いしている状況。動物愛護センターにも相談しながら、企業との協定も含め検討を進めたい。	【総務部】 現在、ペットシート等の備蓄は行っていない。市として備蓄を行った場合、備蓄期限が到来した場合の活用も考慮して備蓄品を選定する必要がある。 市内のホームセンターと物資調達の協定を締結しており、災害時には協定先からペット用品を調達することについても協議していく。
体育館を避難所にした際、避難者が勝手に教室に入ることを防ぐための施錠や二重扉設置など物理的対策は検討しているか。	(危機管理室長) 学校のセキュリティも重要と認識しており、対策を検討し研究していく。	【総務部】 基本的に避難所となる学校はすべて施錠されており、避難所開設時に、体育館など決まった場所のみ開錠して開設している。ただ、不特定多数の方が学校内に出入りすることになるので、セキュリティ面については今後検討が必要であると考えている。
各団体や中学生が別々に災害時の訓練・勉強(避難所運営ゲーム等)をしているが、被災時	(市長) 地域や各団体との連携を深めつつ訓練体制を充実させてい	【総務部】 被災時には、市と各種団体、市民など多くの関係者との

には全員の連携が必要。11 月の総合防災訓練の中で、全体をまとめた訓練の実施は可能か。	きたい。 (危機管理室長) 総合防災訓練で、今後瞬時の対応を想定した企画を地域と協議しながら進める。	協力なくして災害対応はできないと考えている。 現在、市民、各関係機関と協働して総合防災訓練を実施しているが、中学生なども含めた全体の訓練の実施については、今後検討していく。
避難所で、今までの災害で女性用生理用品や赤ちゃんオムツの配布が遅れた事例があるが対策は。 性被害防止のための女性専用スペースや避難グループ単位の配置が必要と思うが市の対応は。	(危機管理室長) 避難所対応職員に研修を行い、女性用品は極力女性職員が配布するなどマニュアルに沿って配慮する。 性被害防止に関しては、男女共同参画センターと連携し避難所にポスター掲示などを実施。パーティションの設置も可能。マニュアルの女性視点の検証と改訂を行い実施に努める。	【総務部】 女性用の生理用品や赤ちゃんのオムツなどは備蓄しており、配布時は女性職員、もしくは女性の避難者に依頼して配布を行うこととしている。 避難所内ではゾーニングにより、通路や避難者スペースを区割りすることとしている。 性被害防止策については男女共同参画センターと連携して対策を考えていく。
津波時に避難場所が満員の場合や混雑時の対応は。備蓄の浸水対策はどうなっているか。	(危機管理室長) 浸水想定に基づき学校や高台避難を想定。地震発生後 117 分で津波到達のため、慌てず避難を呼びかけている。備蓄物資の浸水対策については、学校によっては 2・3 階の空き部屋に置くなどして管理している。	【総務部】 南海トラフ地震の場合、地震発生から津波到達まで 117 分と想定されている。避難場所として、避難所となる施設以外に、高さのある頑強な建物を津波避難ビルとして指定している。またこれらの施設以外でも、頑強で高さのある建物等に避難することも有効であるため、慌てず避難を行うよう呼びかけを行っている。 市の備蓄物資については、市内の複数箇所へ分散して備蓄を行い、備蓄している場所によっては、2・3 階などの場所に備蓄するなど、浸水により、すべての備蓄物資が活用できない状態を回避するよう

		に対策している。
ペットの屋外避難は環境的に厳しいため、空調管理された屋内避難場所の設置は検討可能か。	(危機管理室長) ペットの屋内避難について、現状具体的な方策は未確定。今後の対策に反映したい。	【総務部】 これまで、避難者へ空調管理された空間を避難スペースとして提供できるよう調整してきた。避難者とペットを同じ空間で避難していただくことは、アレルギー問題もあることから難しいため、ペットに対して、空調管理された空間を提供することについては、現時点では難しいと考えているが、先進事例も参考に調査・研究していく。

フリートーク

参加者	市長	対応方針
高砂市にはこれといっためぼしいものがない。 温泉を掘って宿泊施設も入った道の駅があったら楽しいかなと思う。何か一つ作ったらどうか。	若い世代が将来に対して夢を持てるようなまち作りが重要と考えている。公共施設、インフラを進めつつ、意見いただいたような観光・誘客できるような施設を市が作るのか、民間の力を借りながらやっていくのかなど、市民の皆さんのお声を聞きながらまちづくりを進めてまいりたい。	【都市創造部】 現在、市内の各地のまちづくり協議会で、道の駅に限らず、地域課題を含めて活性化に向けて検討している。
市民病院の経営赤字の原因は医師不足と診療報酬の低さ。経営形態の見直しで医師確保や赤字解消が可能か。	現在経営形態の見直しは決定しておらず、分析中。 医師確保については、神戸大学、岡山大学へ協力要請中。コロナ対応で国補助を活用しなんとかやっていたが、コロナ収束後は経営状況がコロナ前に戻っている。この現状を踏まえ、市民病院の将来について市民の皆さんに説明する機会を別で設ける予定。	【政策部】 現在、公設公営を続けた場合における新病院開院年度以降 10 年間の平均基準外繰出金を算定する将来予測を行っており、その結果、4 億円を維持できない場合は経営形態を見直す。 仮に経営形態を見直すことになった場合、医師確保や運営費を含め、持続可能な経営基盤を確立することが

参加者	市長	対応方針
		重要であると考えている。 また、どのような結果になったとしても10月には市民説明会をはじめ、さまざまな方法で市民の皆さんにお知らせしていく。 【市民病院】 医師確保については、神戸大学、岡山大学に継続して派遣依頼をしている。加えて加古川中央市民病院にも派遣依頼をし、現在、専攻医に勤務いただいている状況である。 経営形態が変わればこのような医師確保の方法が変わる可能性がある。
市民病院のベッド数削減(199床→127床)やコンサル費用について。医療費削減の国の政策も踏まえ、市が医療を守る姿勢を示すべきではないか。	市民の命、健康を守るために市民病院が必要であると考えている。診療報酬引き上げなど国へ要望活動を行う。 127床は将来構想検討委員会の答申に基づく数値。病床数などは増減することも含め検討している。	【政策部】 令和6年1月策定の「高砂市民病院将来構想」では、「面倒見のいい病院」として市民の皆さんに寄り添った医療を提供する総合病院を目指すとしている。 現在実施している将来予測の結果次第では、経営形態を見直すことになるが、市民病院を存続させることで、市民のいのちと健康を守っていきたいと考えている。 【市民病院】 診療報酬引き上げなど国への要望活動を行っているが、地域医療を守るためには、診療報酬の増減だけにとどまらず、医療の効率化と

参加者	市長	対応方針
		質の確保、地域医療体制の再構築、医療・介護・福祉の連携など多層的かつ長期的な視点での施策が必要と考えている。
市に対しての意見・質問と市の回答を全市民が閲覧できるシステムはあるか。なければ作ってほしい。要望。	タウンミーティングの議事録は市ホームページで後日公開予定。「市長への手紙」制度では個別回答はしていないが、意見をもとに市として進めたことを、結果として見ていただこうと思っている。	【政策部】 いただいた質問や要望に対する回答を閲覧できる仕組みは、現在はない。今回いただいた要望をもとに、今回のタウンミーティングでいただいた質問や要望に対する回答は、テーマごとにまとめてホームページで閲覧できるよう公表方法を検討する。
播磨臨海地域道路建設計画について、人口減少や環境への影響、増額する予算の妥当性に疑問がある。丁寧な説明や調査、住民周知を求める。	現状、周辺自治会等と意見交換・説明会を実施。今後環境影響調査を行い、結果は丁寧に市民へ説明する。周知についても、広報たかさごや自治会を通じて発信し、適切に対応する。	【都市創造部】 令和7年1月から3月の間に周辺自治会等へ個別説明会を開催し、意見交換を実施した。 今後、環境影響調査に係る準備書について、結果を丁寧に市民へ説明する。周知については、広報誌やホームページ等を通じて発信し、適切に対応していく。
播磨臨海地域道路建設計画では高砂斎場にもかかっていたと思うが、今東京では斎場が民営になって値段が上がっていると聞いた。高砂斎場が建て替えになったときに民間への売却はあるのか。	播磨臨海地域道路に関してはまだ何も計画的には進んでおらず、これからの進捗に伴って説明できるように準備する。	【都市創造部】 現在の道路計画では、高砂斎場の建物には支障しない計画で、駐車場の一部が支障となる計画となっている。
学校給食のお米に関して。新技術で品種改良した銘柄は、家庭で取り入れるのは各家庭の自由だが、学校給食には取り入れてほしくないと思っている。給食に	学校給食に関しては、お米の問題だけではなく全種の食料品について、教育委員会が安全性を確認し、安全な食材をこどもたちに提供していき	【教育部】 現在、学校給食で使用しているお米は、JA 兵庫南管内で生産されたヒノヒカリを使用しており、新技術で品種改

参加者	市長	対応方針
採用されるお米の銘柄や産地をホームページなどで公開できないか。	いと考えている。ご心配の点は今後教育委員会が対応する。	良した銘柄のお米を取り入れる予定はありません。お米の産地情報については、ホームページ掲載を現在検討している。
高砂町の買い物環境が不便。スーパー不足で高齢者らの生活が困難。新商業施設誘致や移動販売による支援を求める。	高砂町の商業施設跡地については、所有者に要望活動中。移動販売支援については、現在自治会を通して説明をしながら進めている。地域公共交通計画も策定中である。今後に対応を進める。	【生活環境部】 高砂駅前の商業施設跡地の利用については、早期の計画の公表と早期着手を引き続き企業に対して要請し、進展があれば市民、市議会に報告していく。 買い物支援については、移動販売車によるテスト販売開始に向けて事業者と自治会との調整がスムーズに進むよう準備を行っており、年内に販売を開始できるよう進めているところである。
市民プールが廃止予定だが代替施設の計画は。 市民意見の反映も希望する。	今年度で市民プールは廃止が決定している。現在、年間通じて利用可能な民間プールの利用可能性を検討中。	【健康こども部】 市民プールの廃止後は、市民から水泳機能の代替として、室内プールの設置を求める声が多かったことから、こどもから高齢者まで年中、水泳が楽しめる室内プールの設置に向け、民間活用を含め、検討している。

(4) ユーアイ帆っとセンター

テーマについての意見交換

参加者	市長	対応方針
水道の耐震化はどう進んでいるのか。 水道料金を上げて耐震化を進める名目だったが、県内でも耐震化率が低く大丈夫か。災害時の水道管破損の影響は大きい。耐震化の進め方について教えてほしい。	水道料金を 30%上げたのは耐震化を早く進めるためである。耐震化率の数字は今手元にないが、上下水道部が計画的に進めている。1~2 年で完了するものではないが、地域の方に不安が出ないように進める。	【上下水道部】 水道の耐震化については、令和 2 年度に策定した水道事業経営戦略に基づき進めている。 その中で、米田水源地浄水施設の耐震化率を令和 9 年度までに 100%、水道基幹管路の耐震化率を令和 12 年度までに 15%達成を目標に掲げている。 現在、米田水源地浄水施設は令和 6 年度より更新工事を着手し、水道基幹管路については、目標達成に向けて随時更新工事を進めているところである。
災害時の、高校の避難所への立ち入りはどうなっているか。鍵を自治会長などに渡すなどの配慮は可能か。	(危機管理室長) 市内県立・私立高校と協議し、市が鍵を管理している。災害時は建物の安全性を判定し危険度に応じて開錠する。そのため、自治会長等に鍵を渡す運用は現状行っていない。	【総務部】 県立高校、私立高校を避難所として開設する場合、市の独断ではなく、協議して開設することになっている。各高校の鍵は、市で預かって管理しているが、開設時の協議が必要なことから、自治会長等に鍵を渡す運用は行っていない。
防災倉庫、井戸、かまどベンチなど災害備品があるが、かまどベンチをもっと増やしていった方がよいと考えている。市長の見解は。	(市長) 地域連携が不可欠であり、施設整備は多方面を考慮して進める必要がある。 (危機管理室長) かまどベンチは市内複数公園に設置実績がある。今後先進事例等を参考に検討していく。	【総務部】 かまどベンチは、平常時はベンチ、災害時にはかまどになる等、フェーズフリーにかなった備品であると認識している。 ただ、かまどベンチだけ整備したとしても、災害時に燃料(木など)をどう調達するの

		か、誰が火の管理を行うのかなど、使用される地域の方々と調整した上で整備を行う必要があるので、今後、先進事例を参考に、調査研究していく。
避難所となる学校の耐震化はどこまで進んでいるか。	(危機管理室長) 全ての学校の耐震化は完了している。	【政策部】 高砂市耐震改修促進計画に基づき全ての学校の耐震化は完了している。
文化会館の敷地に病院を建てる計画があるが、川の近くで浸水は大丈夫か。	(危機管理室長) ハザードマップの浸水想定区域を考慮し、建築対策を行う。	【政策部】 文化会館の敷地は計画規模降雨(100～150年に1回程度の大雨)では想定される浸水は 0.5m～3.0m、想定最大規模降雨(1000年に1回程度の大雨)では想定される浸水は 3.0m～5.0mとなっている。 今後、基本構想・基本計画を策定していく中において、具体的な対策を検討していく。
避難所のプライバシー問題、生理用品の配布など女性目線の対応はどうか。	(危機管理室長) 女性職員でワーキンググループを作り、避難所運営マニュアルの修正を実施。職員の避難所運営訓練では配慮を指導し、生理用品は極力女性から配布する方針。間仕切り(パーティション)も設置しプライバシー確保に努める。	【総務部】 市の女性職員を中心として、ワーキンググループを組織し、備蓄品や避難所マニュアルなどについて意見収集を行っている。 避難所におけるプライバシー問題についてはテント型パーティションを活用することを考えている。また、生理用品などは女性職員や女性の避難者から配布してもらうことを考えており、サニタリー用の黒いビニール袋の備蓄も行っている。
松村川排水機場完成後の効果は。	(都市創造部長) 松村川排水機場完成後に、平	【上下水道部】 松村川排水機場について、台

雨水ポンプの増設や改修の効果は。	成 23 年の台風 12 号ほどの大雨は降っていないが、以前は少々の雨で水位が上がっていた鹿島川の水位が上がらないことを見ると、高砂浄化センター、間の川ポンプ場の造成も含めてポンプ能力が発揮されていると考えている。水路の水位も上がっていないことから、住民も安心されている。	風の接近等で大雨が予測される時は、事前にポンプで排水を行い、鹿島川・松村川の雨水貯留容量を確保し、大雨に備えている。以前と比べると川の水位は上がらなくなっていることから効果が出ていると考えている。 市内の雨水ポンプについても、大雨時に運転することで水路の水位が上がっていないことから効果が出ていると考えている。
仮設トイレ設置の協定を結んだということだが、設置されるのはどのようなトイレか。利用後の清掃や衛生管理は。	(市長) 衛生面は重要視している。 (危機管理室長) 災害時では、協定先の事業者の在庫状況を確認しながら、水洗トイレや、臭いが戻らないような返し弁付きの「快適トイレ」も整備できるようにしたい。	【総務部】 水洗機能付きの仮設トイレの設置を予定している。 仮設トイレの数量によっては、利用後の清掃・衛生管理を、市の避難所運営職員だけでは実施不可能であるため、外部からの支援者や避難者の方々にも協力をお願いして行うこととなる。

フリートーク

参加者	市長	対応方針
市民病院の移転について。文化会館敷地に移転の報道があったが決定事項か。	複数候補地を検討した上で、文化会館敷地を候補地として扱っている。文化会館の基本構想も早急に策定し、市民や関係団体に説明する予定。	【政策部】 令和 7 年 6 月公表の「高砂市民病院移転候補地の考え方について」において、文化会館敷地を移転候補地とした。 経営形態も含め、10 月には市民説明会をはじめ、さまざまな方法で市民の皆さんにお知らせしていく。
市民病院は建替え前提となっているが、建替えたからといって医師が来るのか疑問。	現病院は 30 年以上使用。不具合・老朽化があり改修や敷地内建替えは困難。移転候補地で	【政策部】 現在の市民病院は老朽化が進んでおり、令和 6 年 1 月策

参加者	市長	対応方針
軟弱地盤に震災があると、被害がより酷くなる。	は、水害の備えをして建築整備を考えたい。	定の「高砂市民病院将来構想」において移転建替えとした。 また、医師確保の活動は、今までも積極的に行ってきたが、今後も引き続き取り組んでいく。 軟弱地盤の場合、補強を行うなどの対策が考えられるが、今後、事業を進めていく中で必要に応じて対応していく。
播磨臨海地域道路で地域分断されないか。	播磨臨海地域道路に関しては、各自治会や個別にも丁寧に説明をし、公聴会も行い、ご意見をいただいている。	【都市創造部】 播磨臨海地域道路については、各事業段階に応じて、今後も引き続き、説明を行っていく。
郷土資料館はちゃんと作ってほしい。親しみやすい高砂市になると思う。	公共施設に関しては、最適化計画の中で、市として優先するものを確認・検討し、市民の方々にも説明をしながら進めていく。	【教育部】 貴重な文化財を保存活用するため、適切に保管し展示公開する機能を有する資料館を整備することについて、課題や効果等を諮りながら、今後検討していく。
市民病院での新型コロナ感染症対応の際は、あの広さがあったから対応できた。市民病院を小規模化すると医師や診療科数の維持に不安がある。改修や現状維持で対応できないか。	350床の建物が生かされた新型コロナ対応に関しては、約3年間、市民病院医師をはじめ看護師の方々の対応の結果だと思う。 ただ、今の病院を大規模改修するよりは、移転建替えで持続可能な病院を目指したい。地域医療を守る必要がある。	【政策部】 令和6年1月策定の「高砂市民病院将来構想」では、移転建替え、現地建替え、大規模改修の3パターンを比較検討した。 現病院の運営を休止、制限することなく病院機能を移行でき、患者に一番負担かけないことを勘案し、移転建替えとした。 今後も新興感染症や災害医療については、公立病院として市民の皆さんに安心いただけるよう対応していく。

参加者	市長	対応方針
市民病院の赤字の内訳を詳細分析しているか。 材料費や人件費の上昇への対応は。	赤字は令和 6 年度は約 7 億円。医師不足の課題もある。現在多角的に分析中。	【市民病院】 診療の中心を担う内科の医師不足が赤字の大きな要因である。コロナ補助金の収入減や固定資産除却、人件費、物価高騰による費用の増も赤字の要因となっている。 材料費の高騰対策として、代替品となりうる安価な診療材料や薬品等に見直せないか常に医師、看護師、医療技術職と連携を取っている。 人件費については、必要最小限の人員確保に努め、人件費高騰の抑制を図っていく。
市民病院への公共交通(バス)が改善されていない。今後の対応は。	地域公共交通会議で基本計画を作成予定。高砂町・北浜町地域のバス利便性向上の検討を進めている。市民への説明も行う予定。	【都市創造部】 現在、地域公共交通計画を策定中であり、誰もがより快適で容易に移動でき、持続可能な交通手段を確保するとともに、将来の公共交通の在り方等を定めていく。
高砂町の買い物支援(移動販売など)について市の取り組みは。	移動販売等を地域自治会と連携して案内している。買い物困難者支援の検討を進めている。	【生活環境部】 買い物支援については、移動販売車によるテスト販売開始に向けて事業者と自治会との調整がスムーズに進むよう準備を行っており、年内に販売を開始できるよう進めているところである。

4 参加者のご意見・ご感想（概要）

アンケートの自由記述に記入いただいた内容です。

人と人との輪がうすくなり淋しい気がしております。米田でも老人会や婦人会、こども会などなくなったところがあります。
治水対策、長い時間とお金をかけて進めてきたのだから、市民はもちろん、市外へもっと PR すべき。（市外の人と話していると高砂市は、水害が危ないイメージを持たれています。）
防災についてのテーマは非常にありがたかった。
防災の質問で車いす用のトイレの数が多いとお答えでした。車いすの方が何人おられて、そのためにどれだけ障害者用のトイレが必要なのか把握して準備していただきたいと思います。津波の対策は、避難だけでなく具体的な対応をしてほしい。文化会館への高砂市民病院の計画は、防災の面で不安です。このテーマで市民の意見を聞くべきでは。
テーマ…を広く
前年のタウンミーティングでの質問・回答の内容であるとか、紙ベースの資料があればよいと思いました。
ありがとうございました。
家の見やすいところにハザードマップを貼っておきます。タイシンの件も聞けてとっても良かったです。ありがとうございました。
直接話せる場が欲しかった ※ オンライン参加
災害時の 22 市町の協定があることを初めて知り、素晴らしい取り組みだと思いました。この協定を活用する時の物流の滞りについてどのように想定されているか知りたいと思いました。
オンライン参加者からチャットでの質問を受け付けただろうでしょうか。 会場の様子はよくわかるのですが、視聴だけでなくチャットで感想や質問ができれば、会場での対話にも活かせると思います。
水道管の整備と、一人暮らししやすいおうち(集合住宅とか)を高砂町に作って欲しいです。災害時でもインターネットがしっかりと使えるように対策もして欲しいです。
備蓄品の状況や個人で必要なものが判れば、ありがたいです。
参加人数が少ない。時間と時期を考えてほしい。丁寧だが具体的な話が聞けない。
ありがとうございました。
有意義でした。
年に一度、市長と市民が直接対話できる機会を持つことは大切です。来年度以降も続けてください。
毎年開催してほしい。できれば希望する自治会単位で！！
会場への参加者は予想以上に多かった。ライブ配信も行い、視聴者数も多いと聞いた。やり方に工夫を加え、新しい取組を導入することは良いと思う。
参加者の方が以前より熱心に質問していて勉強になりました。市民病院の赤字対策で一般人にできることを教えてください。

ひとつひとつ丁寧にこたえてくださり、本当にありがとうございました。市民プールの代替案については、小さな子どもも含めて楽しめる室内プールになれば嬉しく思います。本日はありがとうございました。
こういう機会をもっと増やしてほしい。曾根交流Cでもやって欲しい。駐車所は天満宮の松林？（秋祭り時と同じ）
フリートークの時間が短かった。資料・レジュメが必要です。
普段は市政だよりを見て夫婦で話をするだけなので、市長の説明や市民の方のお話をきけて新しい視点をもてて良かったです。
防災についての改善、期待しています。
丁寧な対応に感謝します。
学校の入り口前で混雑して速やかに入れないのでは？ 津波対策として学校の上だけで足りるの？ 備蓄の浸水対策あるの？ タウンミーティングをせずとも市に意見し、それを市の全員が共有できるようにしてほしい。また無回答は絶対にやめてほしい。※嫌がらせなどは除く
津波を想定すると、高台は荒井町にはありません。
（通勤者の災害時の対策について） 沿岸部に企業が集積していて、昼間人口が多い特徴のある高砂市ですが、市民以外の通勤者の避難計画はしっかり出来ているのでしょうか。 沿岸部はとくに、津波や高潮、液状化の被害が大きいと思うので、企業と連携して通勤者への対策もしっかりしてほしいです。
（避難所について） エキゾチックアニマルと呼ばれるような小動物の中には、20度前後の温度管理や湿度管理が必要なペットもいるので、温度管理の難しいペット用の避難先も検討し、市民に周知させてもらいたいです。
（播磨臨海地域道路について） 播磨臨海地道路は必要であると思う立場ですが、市の説明や対応はあまり良くないと思います。丁寧な説明と、多くの人に見てもらえるようにライブ配信の検討を。
（サンモール跡地について） サンモール跡地問題、高砂町民から意見を募集し、企業へ要望書を出してみる等、新たなアプローチをしてみてもいい。
最後の質問のところで急に非公開となってしまったのが残念です。また、ネット回線も時々止まってしまう、その度にチャンネルを開き直す必要がありました。
質疑応答は段取りも良く、内容も興味深く拝聴しました。

地域の行政の役割分担は大事なことと思う。（特に防災面においては） 直近の課題への対応も大事ですが、高砂市の将来のための取り組みもよろしくお願いします。
浜田町の方が、自治会?で防災面に関して色々やっているという話があった。自分の住んでいる自治会では（ダイヤタウン高砂）、防災倉庫が栄町公園にあるのは知っているが、話を聞いたことがなかった。（防災に関して） となり町でこれだけ防災に対して温度差があるのは、問題かもしれないと感じた。新興住宅で自治会ができたばかりということもあると思うが、自治会間の温度差を少なくできるように、市として何かできないか考えてほしい。
高砂市の災害にまけないまちづくりについて、様々な取り組みがされることがよくわかりました。少ない参加者ですが様々な意見や質問もありよかったと思います。ありがとうございました。
「丁寧に説明させていただく」という回答だけでは納得いきません。市民の意見をきくだけではないでしょうか。 財政的とかいわれますが、市民生活を守るのが市長の役割だと思います。大型公共工事をするばかりが市政ではないと思います。
クーラー設置、他災害に対する取り組みには、ありがたいと思います。避難所への取り組み、今後も引き続きお願いしたい。生理用品、女性目線のプライバシーなど、本当に避難できる場所として利用しやすいさの追求をお願いします。 市民 HP のこと、もっと真剣みをもって検討してください。検討しているとは思えない。コンサルまかせではいけない。 参加者の少なさに市民の関心の低さをみました。市の期待があがるように頑張ってください。